

クロカン上位に期待

6日開幕 県勢、合宿重ね意気込み

全国高校スキー大会（全国高体連など主催、読売新聞社共催）が6日に長野県飯山市で開幕する。県勢はアルペンとクロスカントリー（距離）、ジャンプに47人がエントリー。今季は新型コロナウイルスの影響で公式戦の開催が減ったため、県高体連スキー専門部は合宿を重ね、高校総体（インターハイ）に向けて調整を進めている。特にクロスカントリーでは、県勢に上位入賞の期待がかかる。県高体連スキー専門部の高橋鉄也さん（49）（新庄北スキー部監督）と、県大会（1月11、13日開催）で個人フリー、クラシカルの2冠を達成した九里学園の舟山大陸選手（3年）に展望や意気込みを聞いた。（藤本哲至）

男女とも6位以内

県高体連スキー専門部

高橋鉄也さん

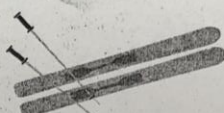


「コロナ禍で初の公式戦となった県大会で、選手たちの状態はどうだったか。」

「これまででは、12月などシーズン序盤に調子が良く、逆に2月のインターハイで調子を上げられない選手が多かった。しかし、開幕が遅かった分、調子を上げていく選手が多い印象です。」

「リレーでは新庄北が2年連続のアベック優勝。男子はエースの岸益幹」

高校総体



選手（2年）が本調子ではない中、他の選手が頑張ってくれたおかげで優勝できた。女子はエースの大場友咲選手（2年）が引張ってくれた」

「インターハイでの目標と鍵を握る選手は。」

「男女ともに6位以内の入賞を目指す。男子はやはり、昨年に全日本の強化指定選手にも選ばれた岸選手の爆発力に期待したい。女子は大場選手にエースの走りをしてもらいたい」

「個人の注目選手は。」

「男子の舟山選手。下半身とキック力が強みで、どんな雪質にも対応できるセンスが光る」

九里学園 舟山大陸 選手



優勝の期待がかかる舟山選手（本人提供）

調子上向き 目標は優勝

「県大会で個人2冠。今シーズンの調子は。」

「まずは一つ、目標を達成できたのでホッとしています。昨年はインターハイ前に調子を落としてしまっていたが、今年の調子は上向きです」

「コロナ禍で取り組んできた練習は。」

「チームで練習する時間が少なく、苦労しました。」

体の柔軟性を高めたり、フォームを見直したりなど一人での練習に取り組みました」

「インターハイの目標は。」

「優勝を目指します。インターハイ直前の全日本選手権でトップの選手たちの力量を測るなど、本番に向けて調子を合わせていきます」